

2012年度第10回執行理事会議事録

期 日：2013年4月6日（土）10:00～12:30

場 所：北とぴあ 802会議室

出席者：石渡会長 ウォリス副会長 渡部副会長 齋藤常務理事 井龍 高木 中澤内藤 西 平田 保柳 星 松田 山本, 安藤議長 松田副議長
オブザーバー 伊藤谷生理事
(事務局) 橋辺

欠席者(委任状提出あり)：伊藤 坂口 山口 山路

*定足数(12, 委任状含む)に対し, 出席者14名, 委任状4名, 合計18名の出席.

*前回議事録を確認し承認した.

I 審議事項

1. 論文賞の対象論文の範囲についての検討

最終案確認

改正案のうち「著述」→「著作」と修正した上で理事会に提案することを承認した.

2. 125周年事業案の検討

5項の「祝賀会の費用とともに」→「祝賀会の費用は」と文言修正をした上で理事会に提案することを承認した.

3. 中期ビジョンWG委員の選出

推薦候補者の年齢構成, 所属構成については, バランスを考慮して再検討する.

4. 第49回東・東南アジア地球科学計画調整委員会(CCOP) 年次総会国内組織委員会への参加および後援名義の使用の許諾

後援を承認し, 委員は渡部副会長とする.

5. IGCP608(安藤寿男代表)の後援依頼について

後援を承認する.

6. 日本歴史学協会の声明に関して

会長名にて, 仙台大会での関連するシンポジウム等の案内をもって返事とする.

7. ロンドン地質学会との学術交流協定について

学術交流協定文書案の大筋は承認するが, 条文についてはさらに検討する.

8. 理事会議事運営の確認

議長らと議事, 資料等の確認を行い了解された.

9. その他

電子出版の具体的方法については, 執行理事会において急ぎ具体的に検討する(継続審議).

II 報告事項

(1) 全体的報告

1) 立川断層関連報告(伊藤谷生理事)

関東支部が協力した立川断層の一般公開とその後の断層発見を訂正する記者会見(東大地震研)についての経緯と状況説明があった. その上でこれまで

立川断層だと思われていたトレンチから南側の地形は浸食崖の可能性が高いこと, セメント(グラウチング)を断層関連物質と認識してしまった原因とその改善策を学会としても検討する必要があることが報告された.

2) その他

日本の地質学のレベルについて一般から質問があったが, 匿名の質問でもあったのであえて回答はしなかった.

(2) 運営財政部会:総務委員会(西・山本)

<共催・後援依頼, 他団体の募集等>

1. 朝永振一郎記念第8回「科学の芽」賞(筑波大学)

後援依頼→例年通り承諾

2012年度報告書送付

2. 藤原科学財団「藤原セミナー」の募集:2014~2015

に開催される自然科学分野のセミナーへの助成, 〆切7/31→News, HP, geo-flashに掲載

3. 日本学術振興会25年度「育志賞」の推薦, 受付期間 6/12- 6/14, 学会 〆切 5/31→News, HP, geo-flashに掲載

4. 日本原子力学会より, 平成24年度の原子力総合シンポジウム(共催)は, 東電福島関係のシンポ等で調整不調となり, 年度内の開催に至らなかった, 25年度の開催についても現時点では未定との連絡があった.

5. 地理学連携機構・地理学連合その他の合同総会(3/28)へは欠席として返事をした.

6. 広島県「イノベーション人材育成事業補助金」随時募集→News, HP, geo-flash掲載

7. 三浦半島活断層調査会から地質の日の行事として実施する「城が島観察会」の後援依頼があり, 承諾した.

<その他>

- ・(株)ダイヤコンサルタント役員体制変更挨拶
- ・資源素材学会役員交代挨拶(会長 金子勝比古)
- ・山田科学振興財団理事長就任挨拶

<会員>

1. 今月の入会者(5名)

正会員(4名): 浅見茂雄, 豊田洋一, 渡辺洋二, 田上 響

正(院割)会員(1名): 池田咲子

2. 今月の退会者(201件)→回覧 2012年度末退会者・除籍者一覧

退会者(102件): 賛助1件, 正会員89名, 正(院割)会員12名

除籍者(99名): 正会員 99名 会費滞納による

3. 2013年1月末日会員数

賛助: 26 名誉: 69 正会員: 3780(正会員: 3594, 正(院割)会員: 175, 正(学部割)会員: 11 合計

3875 (昨年比-90)

4. 2013年度50年会員 17名 (1963年入会者)

飯泉 滋 宇井啓高 蛭子貞二 大口健志 小河靖男 小林治朗 近藤 務 戸野 聡 平野英雄 平野昌繁 藤原嘉樹 丸山孝彦 室井 晋 矢内桂三 柳 哮 吉田 勝 米山正次

5. 会員数がほぼ3900人になり、予想通り減少している。

<会計>

- ・会計委員会にて決算予想案、予算案作成
- ・事務局職員澤木 (2001年~2012年4月15日、産休1年除外)・堀内 (2002年4月1日~2012年3月31日)の両名は勤続10年に達したので規定により3万円の祝い金を贈呈することとした。
- ・学術著作権協会より複写使用料分配通知 (2011年度JRRC再委託分) 77,687円
- ・大会開催費 (収支相殺) に980万を予定している。科研費 (一般公開) の採択の可否によっては、市民向け行事の経費負担も増えるので、状況は大きく変わる (申請150万)。
- ・出版費が逼迫している。ジオルジュの発行は意味あることではあるが、経費負担について検討が必要。
- ・IAの契約更改が迫ってきている。IAの出版費としてオンライン購読配当収入に差し引き分として100万程度含まれている。今後も同じ程度の費用が見込まれる。

(3) 広報部会：広報委員会 (内藤・松田)

- ・5/18フォトコン表彰式において、会場で入賞者の写真を展示することとした。
- ・フォトコン入賞写真の展示公開は、5月下旬から埼玉県立自然の博物館でおこなうこととなった。その他、地方の博物館での展示も予定。

(4) 学術研究部会：行事委員会 (星)

- ・学術大会の共催・同時開催について
今後、他学会との共催や同時開催を積極的にすすめるかの検討が必要。当学会は2-3年先まで開催地を決めているので、他学会との共催・同時開催を最初から計画しておくのは難しい。日程が折り合えば検討するという程度で良いのではないかと、との意見があった。理事会でも意見を聞くことにする。

- ・仙台大会の津波堆積物巡検のトレンチ掘削 (予定) について

プレ巡検およびポスト巡検のため2回掘る必要があるとのこと。2回分の費用見積もりが約136万円。学会が全額を負担するのは不可能なので、再度業者と交渉が必要。

掘削を1回にする、規模によってはスコープで掘るのでも十分ではないかとの意見があった。

(5) 学術研究部会：国際交流委員会 (井龍)

- ・モンゴルとの協定を結んだ際のモンゴル地質学会の会長が環境大臣に就任したと話題提供があった。

- ・GSL (ロンドン地質学会) との相互協力についての交渉が進行している。

(6) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会 (山路)

- 1) 編集状況報告 (4月1日現在)。
 - ・2013年度投稿論文 総数26編 [論説8 (和文7 英文1)・報告3 (和文3)・口絵3 (和文2, 英文1)・巡検案内書12]・査読中32編 (巡検案内書を含む) 受理済み19編 (うち通常号10 特集号9)
- 2) 掲載状況
 - ・119巻4月号：「中国地方の中・下部新生界の研究一層序・年代・テクトニクス・古環境」(2012.2.27受付) 代表世話人：澤田順弘 (約100ページ、校正中)
 - ・119巻5月号：通常号 (予定)
- 3) 編集委員交代
 - ・編集規則の改正案とともに、継続ならびに新任委員、退任委員を理事会に提案する。
新任：野々垣進 (情報地質、産総研)・白石史人 (炭酸塩岩堆積学、広島大)・荒戸裕之 (碎屑岩堆積学、国際石油開発 (株))
退任：能美洋介 (岡山理科大)・高野 修 (石油資源開発)・七山 太 (産総研)

(7) 編集出版部会：Island Arc編集委員会 (伊藤)

- ・編集状況ほか報告
- (8) 編集出版部会：企画出版委員会 (山口)
 - 1) 超地球史年表 (清川)：2人に査読依頼、うち1人から受領済、もう1人は4月末を予定。岩波書店からの出版の可能性を検討中。
 - 2) 富士山・青木ヶ原のたんけんマップ (小尾靖ほか)：企画提案書の提出あり。現在検討中。
 - 3) 長瀬たんけんマップ (本間ほか)：著者陣から、平成25年度中の刊行希望で、是非執筆したいとの連絡あり。新年度の人事異動の結果を踏まえ、編集担当などの人選を行い、企画委提案書の作成を行う予定とのこと。

- 4) 三浦半島リーフ (蟹江)：特に進展無し。現在三浦半島の地質図に関して投稿論文を準備中。

5) 電子出版関係

- ・「白滝ジオパーク」および「地学を楽しく」の原稿の校閲は間もなく終了の見込み。白滝は内容が難しく、一般の方が理解できる程度まで簡単にすることが必要。地学を楽しくは、大きな修正はない見込み。

- ・公開手段についての検討が必要

(9) 社会貢献部会 (高木・平田・中澤・保柳)

- 1) 「地質の日」本部事業、支部事業
 - 2) 2013年度春季地質調査の研修 (中澤理事)
- ・申し込み者数は定員6名に達し予定通り実施される。

(10) ジオパーク支援委員会 (高木)

- ・日本ジオパーク委員会：今年の申請予定地域は以下の通り。
GGN (希望) 3地域：アポイ岳、白山手取川、霧島
JGN 10地域：三笠、鹿追、三陸海岸、佐渡、美祢市、

四国西予, おおいた姫島, おおいた豊後大野, 桜島,
本部半島

- ・5月20日の公開プレゼンテーション（幕張国際会議場）は地域数が多いため、朝9時開始。

(11) 地学オリンピック支援委員会（平田）

1) 第5回日本地学オリンピック本選が3月24日～26日の日程で行われ、大会の主な変更点は、以下の3点。

- ・今回は参加者が倍増：56名の予選突破者（中3～高2）と、チャレンジ受験者4名（中1・2）
- ・今回から優秀賞受賞者10名を選出し、5月11～12日に最終選抜を行うこととなった。

（これまではこの大会で日本代表4名を選出していた。）

- ・表彰式で、地球にわくわく自由研究コンテストの表彰も行われた。

2) とっぷレクチャーでは協賛団体の広報誌などを配布することが可能で、生徒たちへの参加賞の提供も受け付けているとのこと。日本地質学会でも広報誌などの提供を検討してほしい旨の要望があった。

(12) 震災復興事業プラン検討WG（高木・西・藤本・斎藤）

- ・昨年度事業1件未報告（催促中）、今年度事業1件会計清算は済み

2013年5月18日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事） 石渡 明

署名人 執行理事 斎藤 眞